

(第3種郵便物認可)

# 職員ら一斉にマスク

## 成田空港 陸自医官ら応援に

マスク着用で業務に当たる空港バスの運転手や係員  
—成田空港で30日午前、山本晋撮影



成田空港では30日、検疫業務の応援にあたる陸上自衛隊や防衛医大の医官、看護官ら32人が空港検疫所に到着。機内に立ち入る整備士や清掃作業員などの空港職員も警戒レベル引き上げに伴い、一斉にマスクの着用を始めた。

機内検疫は28日から、メキシコと北米便を対象に開始。同検疫所の検疫官約50人のほかに、東京、横浜面検

疫所などからも毎日30〜40人が応援に入っている。しかし、検疫開始までに乗客が機内で2時間近く待たされるケースもあり、厚生労働省が派遣を要請していた。厚生労働省は、成田空港での勤務経験のある検疫官をさらに全国から集める方針。

一方、東京税関成田空港支署は、旅員検査に当たる全職員に常時マスク着用を義務付け、これまでメキシコ

と北米便だけが対象だったが、全便に拡大。全日空は、客室乗務員や地上職員についても着用を検討している。また、京成電鉄は成田空港など3駅に消毒薬を配備し、駅職員らにはマスクを配布。リムジンバスを運行する東京空港交通と京成バスも、運転手らに着用を指示した。乗客の荷物やバスに積み込んだいた須藤由美さん(26)は「息苦しいが常に着用したい」と話した。

【駒木智一、倉田陶子】

### うがい、手洗い重要

帰国者 症状あれば保健所へ

新型インフルエンザ(豚インフルエンザ)とはどんな症状なのか。感染防止策と合わせてまとめた。

症状は、冬に流行する季節性インフルエンザと同じで、熱やせき、易検査で確認。感染が判明後、遺伝子を解析

し新型ウイルスと同じかどうかを調べる。このウイルスに対し、大半の人は免疫がない。ワクチンがまだつくられていないため、手洗いやうがいの徹底が大切だ。専門家は「ぜんそくなど呼吸器疾患のある人は、他のウイルス感染も防げるのでマスクをつけてほしい」と呼びかける。

治療では、重症化を防ぐインフルエンザ治療薬のタミフル(一般

### WHOが世界に警告／恐れすぎず、甘く見ず／「自分で判断」禁物

WHOが警戒レベルを「フェーズ4」から「5」に引き上げた意義や今後の対策について専門家に聞いた。

押谷仁・東北大学教授(ウイルス学)の話 フェーズ5への引き上げは想定内だった。各国で感染が拡大していること、米国で死者が出たことで、WHOが世界に警告し、対策の強化を要請したことを意味する。感染は今後も広がり続けるだろう。日本だけ感染者が出ないとは考えられない。水際対策を強化するだけでなく、国内で発症者がした場合の対策に焦点を移す段階に入ったと言える。

山本太郎・長崎大学教授(国際保健)の話 正しく恐れることが大切だ。かつてのパンデミック(世界的大流行)を教訓に、恐れすぎてもいけないし、甘く見てもいけない。1918年のスペイン風邪は流行の第1波より第2波のほうが毒性が強まった。68年の香港風邪は毒性が高くなり落ち着いた形で広まった。現段階で人に対してウイルスは弱毒というのが共通認識だろうが、流行が続いた場合、毒性が強まる恐れも弱まる可能性もある。監視体制を維持することが求められる。

大久保憲・東京医療保健大学大学院教授(感染制御学)の話 現時点では、せっけんを使って流水で手洗いすることやアルコール消毒、こまめなうがいなど、通常の感染症対策が有効だ。疑われる症状が出た場合、自分で判断して医療機関を受診すると、他の患者と接触し感染を広げることがある。まずは保健所に電話して、指示を仰ぐことが大切だ。

健康状態悪化問題 厚労省配布漏れ 4空港で 新型インフルエンザ 対策として検疫強化のため各空港で実施していた「健康状態悪化問題」の配布を巡り、厚生労働省は羽田、中部、関西の3空港で28〜29日、入国者約1万8000人に配布していたことが明らかになった。成田空港でも37便で配布しておら

名・リンビル)かザナミビル。症以内で服が期待でメキシ帰国したのどの痛がなければ談した方以上に加ルスは死豚肉や豚べても感ない。【